



# 岐阜の電車「むかし話」

## 明治・大正の岐阜市とその周辺

チン、チンという合図と共に、ガタンゴトンと走っていたチンチン電車。長い間、親しまれてきた路面電車は2005年(平成17)3月に姿を消しましたが、いつ、どのようにして生まれたのでしょうか？

### 1. 明治の頃の岐阜のようす

明治6年(1873)岐阜県庁が笠松から岐阜に移転すると、商都の岐阜町は大いに発展することとなりました。商業の中心地であった岐阜町の繁華街は米屋町・松屋町・相生町(下矢嶋町)などで、周辺には商家が軒を連ねていました。「御船街道」と言われた名古屋街道沿いの上加納村でも、美園町・金津町などは市街化しました。しかしその他は田んぼの広がる農村そのままでした。

明治20年(1887)岐阜町の郊外である上加納村や加納町の境あたりに加納停車場(後に岐阜停車場に改称)ができ、明治22年(1889)東海道線が開通しました。そんな中、県庁・市役所などがあつた岐阜中心部と停車場(駅)を結ぶ道路の整備などが求められるようになりました。その頃、関は刃物、美濃は和紙の産地として全国に知られ、両町とも長良川の水運交通によって岐阜との強い結びつきを持っていました。明

治22年(1889)東海道線が開通しても、木曾・長良・揖斐三川の流域である中濃・岐阜・西濃地方では、取引される物資の多くは、舟で三川を上下して運送されることが多かったのです。長良川筋でみると、米・麦・大豆・小豆・味噌・醤油・木材・薪炭・傘・清酒・生糸・ちりめん・紙等の生活必需品や特産品などでした。

これらの舟が行きかう川筋の物資の集散地では、荷物の積み下ろしで賑わいをみせ、川湊を基点に、荷車や荷馬車によって荷物が各地へ運ばれました。電車は、そんな時代に誕生した新しい交通手段であり、今まで徒歩か人力車、馬車または舟で行っていたものが電車で行けることになったのです。明治42年(1909)11月に設立された美濃電気軌道も、そんな明治の鉄道ブームのなかで建設された鉄道会社の一つでした。

### 2. 岐阜の町を電車が走る

明治44年(1911)2月11日、岐阜に初めて電車が走りました。駅前(神田町8丁目)〜今小町の市内



明治24年の地図 岐阜市のようす



岐阜公園前を走る電車



大正末の美濃電気軌道路線図

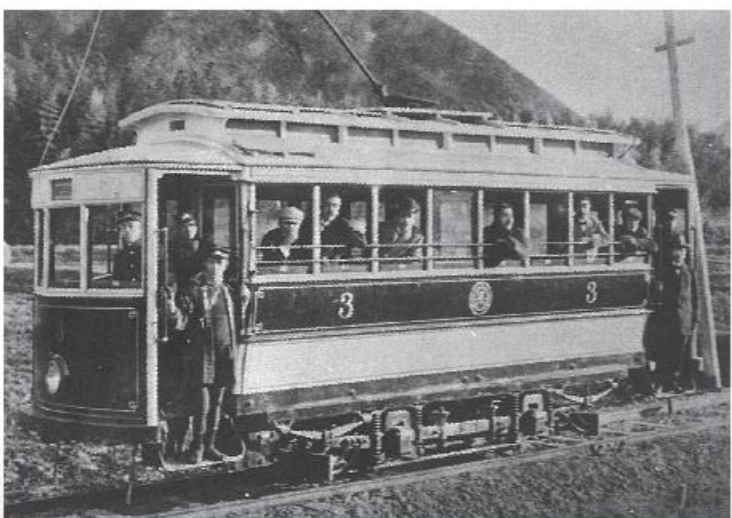
分でどつと詰めかけ、大盛況でした。開業後数日は、脱線や停電が相次ぎ、その後もしばしばはご難続きでした。

乗客数も祝日や節句等、乗客の多いときは積み残しもありました。普通段は利用客が少なかつたようです。1輛10人も乗れば採算が取れる勘定でしたが、経営は苦しいものでした。当時、うどん1杯が2銭という時代でもあり、庶民にとっては高い乗り物で、お金持ちや役人など特別の人がほとんどでした。普通の人は盆、正月、農休みや節句など特別の日だけで、1年に2、3回しか乗らず、しかも帰りの片道しか乗りませんでした。

### 3. 電車路線の拡大

大正期になると美濃電気軌道は経営を拡大し、路線の拡大を図りました。北は長良橋さらに大正4年(1915)には長良北町まで、南は現在の岐阜駅前まで延長しました。

また郊外線では大正3年(1914)12月に広江から新岐阜間の開通で、新岐阜から笠松間が全通しました。さらに大正2年(1913)に経営を始めていた長良軽便鉄道(長良)



長良軽便鉄道

大正13年(1924)には、市内線が西へ向かい、長良川沿いの鏡島まで延長しました。この結果、岐阜市内と郊外の地場産業の中心地である高富、北方、笠松や鏡島まで電車で結ばれる形となりました。こうして、郊外の農村地帯からの貨物は長良川水運や木曾川水運を通じて全国の都市へつながる駅に連絡するという都市構造の基本が出来上がったのです。しかし大正末ころから、貨物輸送の主役は自動車に譲ることになりました。

○この文章は、「ふるさと岐阜の物語」「わたしたちの岐阜県の歴史」「ふるさとの想い出写真集 明治・大正・昭和 岐阜」「写真集 目で見る岐阜市民の100年」などを参考にし、林再寿がまとめました。

高富間)を大正9年(1920)に合併しました。大正3年(1914)忠節〜北方間を開業していた岐阜軽便鉄道も、大正10年(1921)に合併。このように美濃電気軌道はますます大きく発展することになりました。岐阜市内では、県庁や岐阜駅を基点とする道路網、鉄道網の整備が進むと同時に、八間道(長良橋通り)の商店街、柳ヶ瀬の歓楽街が徐々に完成していきました。そんな交通機関の中心となっていた美濃電気軌道が、小規模の電力事業も行う有数の大企業となっていました。

岐阜市歴史博物館ボランティア  
「お話・岐阜の歴史サークル」  
代表 後藤 征夫  
http://book.geocities.jp/gifureki/ekstophm  
TEL 058-231-6726